

平成27年8月6日

平成27年

第2回大田区教育委員会臨時会会議録

大田区役所 201・202・203会議室

平成 27 年第 2 回大田区教育委員会臨時会会議録

平成 27 年 8 月 6 日（木曜日）

1 出席委員（6名）

尾形 威 委員	委員長
芳賀 淳 委員	委員長職務代理者
横川 敏男 委員	
藤崎 雄三 委員	
鈴木 清子 委員	
津村 正純 委員	教育長

2 出席職員（24名）

教育総務部長	松本 秀男
教育総務課長	水井 靖
副参事（教育政策担当）	曾根 暁子
副参事（教育施設担当）	酒井 敏彦
学務課長	森岡 剛
指導課長（幼児教育センター所長兼務）	菅野 哲郎
副参事	長塚 琢磨
学校職員担当課長	佐藤 國治
教育センター所長	岩田 美恵子
大田図書館長	五ノ井 巖暢
指導課 統括指導主事	田井 俊行
指導課 統括指導主事	岩崎 政弘
指導課 統括指導主事	小林 繁
指導課 指導主事	山本 浩司
指導課 指導主事	木下 健太郎
指導課 指導主事	古川 大輔
指導課 指導主事	志賀 克哉
指導課 指導主事	保刈 栄紀
指導課 指導主事	中治 謙一
指導課 管理係長	佐藤 裕樹
指導課 管理係 主任主事	唐澤 毅
指導課 管理係 主事	神津 智哉
教育総務課 庶務係 主任主事	卯木 一嘉
教育総務課 庶務係 主任主事	小島 浩二

3 日程

日程第 1 平成 28 年度使用大田区立中学校教科用図書採択について

日程第 2 議案審議

第 56 号議案 学校教育法附則第 9 条の規定に基づく平成 28 年度特別支援学級使用教科用図書採択について

（追加）第 57 号議案 平成 28 年度使用大田区立中学校教科用図書採択について

~~~~~  
(午後 2 時開会)

○委員長

ただいまから、平成27年第 2 回教育委員会臨時会を開催します。

本日は、中学校教科用図書採択の審議を行いますので、大田区教育委員会会議規則第14条により、教科書採択関係職員の出席も求めています。

それでは、本日の会議に出席する職員の氏名の読み上げをお願いします。

○事務局職員

本日の出席職員の氏名を読み上げます。

松本秀男教育総務部長、水井靖教育総務課長、曾根暁子副参事（教育政策担当）、酒井敏彦副参事（教育施設担当）、森岡剛学務課長、菅野哲郎指導課長、長塚琢磨副参事、佐藤國治学校職員担当課長、岩田美恵子教育センター所長、五ノ井巖暢大田図書館長。

次に、指導課からの出席でございます。田井俊行統括指導主事、岩崎政弘統括指導主事、小林繁統括指導主事、山本浩司指導主事、木下健太郎指導主事、古川大輔指導主事、志賀克哉指導主事、保刈栄紀指導主事、中治謙一指導主事、佐藤裕樹管理係長、唐澤毅管理係主任主事、神津智哉管理係主事。

この後、傍聴人の誘導並びに会場の整理といたしまして、教育総務課から、卯木一嘉庶務係主任主事、小島浩二庶務係主任主事が出席いたします。

以上、24名でございます。どうぞよろしくお願いたします。

○委員長

これより審議に入ります。本日の出席委員数は定足数を満たしていますので、会議は成立しています。

○事務局職員

本日は、傍聴希望者が48名おります。

傍聴の定員は、大田区教育委員会傍聴規則第 5 条により16名と規定されておりますが、同条ただし書きに、「委員会が必要と認めるときは、これを変更することができる」との規定がございます。

本日は、傍聴人を90名まで受け入れられるよう、椅子を用意してございます。増員についての御協議をお願いいたします。

○委員長

今、事務局から説明があったとおり、本日は定員を超える傍聴希望者がおります。これは、教科書採択への区民の関心が高まっているためだと思われれます。

私としては、区民の関心に応え、公平・公正な開かれた教科書採択を行うために、大田区教育委員会傍聴規則第 5 条ただし書きにより、本日の定例会における傍聴人の定数を90名に増員し、定刻までに傍聴を希望された方に傍聴を許可したいと考えます。

委員の皆様、いかがでしょうか。

(「異議なし」との声あり)

○委員長

傍聴を許可することにいたします。

(傍聴者入室)

○委員長

大田区教育委員会傍聴規則第7条により、傍聴人は、議場における言論に対して批評を加え、又は拍手その他の方法により公然と可否を表明することは禁止されております。御協力のほど、よろしくお願いいたします。

次に、会議録署名委員に津村教育長を指名します。よろしくお願いいたします。

それでは、日程第1について、事務局職員の説明を求めます。

○事務局職員

日程第1は、昨日の定例会に引き続きまして、「平成28年度使用大田区立中学校教科用図書採択について」でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

○委員長

それでは、昨日の第8回定例会に引き続き、平成28年度使用大田区立中学校教科用図書採択の審議を行います。

昨日の定例会では、国語、書写、社会(歴史)、社会(公民)、社会(地理)、地図の6種目について審議いたしました。

本日は、数学、理科、音楽(一般)、音楽(器楽)、美術、保健体育、技術・家庭(技術)、技術・家庭(家庭)、英語の9種目について審議を行います。

○委員長

それでは、はじめに、数学について審議します。数学の発行者は、7社あります。

委員の皆様、御意見をよろしくお願いいたします。

○教育長

数学に関しまして、私は、「G」を推薦したいと思います。

その理由ですけれども、第一に、レイアウトや配色がよく、重要なポイントの下地が黄色であるなど、見やすくする工夫がされている点が挙げられます。

第二に、単元の学習の前に必ず復習のステップを入れており、既習事項の確認と新たな学習内容との接続を重視しています。学習を効果的に進めるためには大切な手順であると思います。

第三に、巻末で、「数学で大切にしたい考え方」を何点かにわたって事例を交えて紹介しており、数学的な思考を育む上で、基本的な考え方をしっかり身につけてもらうためには、このようにまとめて記載されているのは、学習者が頭の整理をしやすく、有効だと思いました。

以上が、「G」を推薦する理由です。

## ○藤崎委員

私も、「G」社を推薦したいと思っております。

まず、今、大田区の子どもたちが、数学という観点において、どこに注意をすべきかといった際に、幾つか指摘されているのですが、図や式をつなげる、ですとか、視覚的に理解をする、有効数字の特徴を知る、グラフの読み取りをする、これらは限定列挙になりますけれども、そこら辺は注意をしないといけない、というふうに言われているところであり、その際に、基礎・基本をしっかり固めること、ということと、将来の活用、ということ、この二つの点で考えたときに、やはり基礎・基本というところをどうやって押さえるかというところで、今まさに津村教育長がおっしゃったとおり、各章に入る前の段階で、必ずその前の章ないしは前の学年の振り返りをしっかり押さえているということ、「Let's Try」という項目で、次のイメージづくりをさせるというようなところがあります。

また、典型的な誤答例、これはよく間違っけてしまいますよね、というような事例を挙げてピックアップしているのが、これは複数社あったのですが、この「G」社も必ずこれが入っていたというところですね。

あとはレポートの書き方とか、そういうところをちょっと見てみたのですが、そこら辺の総合的な考えを踏まえて、私は「G」社を推したい、というふうに思っております。

## ○鈴木委員

今お二方から御意見がございましたが、私も藤崎委員がおっしゃるように、まずは基礎・基本の理解ということが大切だなと思っております。学習指導要領では、数と式、図形、積数などを学んで数学的活動に結びつける、というようなことが指摘されております。日常の中で数字を利用して活動する数学的な表現は、非常に難しいかと思えますけれども、それを自分なりに説明して伝え合う活動の機会を設けようということがございますけれども、これら、大田区の学習効果測定の結果を照らし合わせながら、7社ございますので、とりあえず3社にまずは絞りました。そして学校の意見などを含めて参考にいたしまして、結果としては、「A」社を推薦いたします。

理由としては、先ほどお話しのように、何社か同じような、これはよい、という部分がございますけれども、まずページ構成について、巻末に「学びをつなげる」として、前の学年までの学習内容とのつながりがあらわされている。そういったことや、基本の問題やまとめの問題が非常に豊富である、ということでもあります。それと、「数学のまど」として、数学を広げるための促しがございます。

それから、先ほどもございました他社とこれは同様ですが、つまずきやすい箇所に対する誤答例の掲載を多くしている、という部分がございます。そのうえ、その回答案内もページを示して確認を促しております。

それから、「もっと練習！」という問題や、「補充の問題」が何ページにあるかななどを示しております。随所に自習活動の促しが掲載されていることとございます。

練習問題はたくさんこなしたほうが基礎的にはよろしいかなと、このように考えておりました、「A」社といたしました。

以上です。

## ○横川委員

私は、「A」社を推薦いたします。

今まで意見が出ましたが、典型的な誤答例が出ている、それから問題が充実している。特に、基本の問題、章のまとめの問題の充実、それから補充問題も充実している。

大田の子どもたちが弱いところは、昨日からほかの教科でもずっとありますけれども、表現する力が弱い、数学ではグラフを書くこと、グラフを選ぶこと、そしてそれを自分でまとめる、あらわすというところが弱い、ということが言われております。

それから、「A」では、「レポートにまとめよう」という項目がございまして、1ページで非常に丁寧に説明しているなど、大田の子どもたちが自分で表現する力を引き出すのは、「A」社ではないかなと思ひまして、「A」社を推薦いたしました。

## ○芳賀委員

私も、「A」がよいと思っております。

一言で言えば、行間を埋める丁寧な説明があり、わかりやすいということです。数学が得意な子でしたら、いちいち説明しなくても、「これは当然そうなるよね」といったところでも、苦手な子には、「あれ、どうしてそうなるの？」になってしまうことがしばしばあるわけです。そこで勉強についていけなくなるということも、特に数学のような、前がわからないと次がわからなくなるタイプの科目では、当然起きてくることです。

例えば、中3の二次方程式のところで、平方根を使って解く方法を教えるところがあるのですが、なぜ両辺に同じ数を足すのか、そもそもその同じ数ってどこから出てきたの？というような疑問を持ちそうなどころがあるわけです。これに関して、「A」は、図を示したり、あるいは「正方形をつくっているね。」という吹き出しを入れるなどして、生徒が頭の中でどうして？という疑問を抱きそうなところに配慮した説明をしています。

あと、既に御指摘がありましたけれども、典型的な誤答例を示しているのも、同じように、つまずきやすいところを何とか回避できる工夫ということで、よいことと思います。

そういうことで、「A」がよいと思ひました。

以上です。

## ○委員長

私は、「A」社を推薦します。理由は、次のとおりです。

第一に、大田区の学習効果測定や東京都の学力調査の結果から、もっと基礎的、基本的な事項を徹底する必要があると考えたからです。具体的な例や問題に取り組んだ後、「例」にならって解く問題の「たしかめ」をしてから「問」に進み、基礎的、基本的な知識や技術が確実に身につくと考えました。また、基本問題の横に関連した問題が、さらに「補充の問題」へのリンクを示して別ページにも問題が用意されているので、確実に定着すると考えました。例にならって自宅でも学習でき、わかった、できた、という喜びを実感できるのではないかと考えます。

第二に、私はよく学校に行って授業を参観させていただいているのですが、数学の習熟には非常に個人差が大きい。そして、定着が十分でない生徒への対応が必要だと考

えました。「A」社は、最も練習や補充問題が用意され、繰り返し練習ができ、基礎・基本が徹底すると考えます。また、補充問題には、基本問題から難しい問題まで用意され、大田区の展開している習熟度別の授業に合っているのではないかと考えました。

第三に、全ての生徒に、わかった、できた、という感動を味わわせるために、生徒のつまずきに対する指導が適切であると思います。「ちょっと確認」や「まちがい例」で、間違いや、つまずきの多い典型的な誤答例を示し、振り返りや学び直しを行い、同じ間違いを繰り返さないように徹底されております。

第四に、大田区で重視している「学ぶ意欲」を大切にしています。導入では、生徒の身近な問題を題材に取り上げております。また、例にならって自分で解くことができる問題が用意され、主体的に取り組み、わかった、できた、という実感が味わえると考えます。

第五に、「学習の進め方」、「学び合い」、「数学マイノート」、「レポートにまとめよう」など、教科書の使い方、ノートの使い方、レポート活動などが丁寧に説明され、自分の考えを友達に説明したり、授業の記録をレポートにまとめるなどの言語活動を通して、学習内容が定着するようになっております。

総合的に考えて、「A」社を推薦しました。

#### ○委員長

それでは、審議のまとめをいたします。

審議の結果、「A」社を評価する意見が多かったように思います。

「G」社を評価する意見もございましたが、1社に絞るとしたら、評価する意見が最も多かった「A」社であろうと思います。

数学については、「A」社がよいということでまとめてよろしいでしょうか。

(「異議なし」との声あり)

#### ○委員長

それでは、数学については、「A」社といたします。

#### ○委員長

続いて、理科について審議します。理科の発行者は、5社あります。

委員の皆様、御意見をお願いいたします。

#### ○教育長

私は、「A」を推薦したいと思います。

理由ですが、まず第一に、中学校1年の教科書冒頭の見開きのページでは、「見えない物を見る科学の力」と題し、電子顕微鏡で見た画像や星雲、音波によって得られた地下の構造など、インパクトのある写真などを示し、学習者に科学の力を示すとともに、学習にあたっての興味・関心を起こしやすい特集を組んでいます。

第二に、目次において、小・中学校における既習内容とこれから学習する内容の対照、共通する参照箇所を見開き3ページで表示することで、学習者が全体を俯瞰しながら効率的に学べる工夫をしています。

第三に、学習者の興味・関心をかき立てる読み物、「科学でGO!」で多くの話題を取り

上げていますが、「プラスチックと医療」、「フリーズドライを利用した史料の修復」、「深海魚は、なぜつぶれない?」、「7万年間積み続けた奇跡の地層」、「空気中の酸素はどこから来たのか?」など、取り上げる題材が斬新であると思いました。

四点目は、「from JAPAN ニッポンの科学」という特集記事で、大田区ゆかりの下町ボブスレーが見開き2ページにわたり取り上げられています。

第五に、「どこでも科学」というコーナーで、こんにやくを地層に見立て、その地層のずれによって地震に相当する振動が発生する実験が紹介されています。手近な材料で体感できる実験としておもしろく、また、こんにやくと実際の地層との共通点を考察すると、地震についての本質的な理解につながると感じました。

以上が、「A」を推薦する理由でございます。

### ○鈴木委員

結論として申し上げますと、私は、「A」を推薦いたします。

理由といたしましては、まず一つ、先ほど教育長のほうからもお話がございましたので、若干プラスしてお話になろうかと思っておりますけれども、まず、実験のところでございますが、検証するための実験、解明のための観察など、実験観察の目的を明確にしております。1学年では「理科室の決まり」として、「心得」や、「やってはいけないこと」を示しています。実験前、実験中、それから実験後の注意や応急処置、地震のときの対応まで、安全な実験学習の進め方を掲載しております。

それから、学習を広げる意欲・関心を高める工夫といたしましては、先ほどのお話のように、「科学でGO!」が随所にあります。知識の広がりをつかんでいます。また、様々なマークがございますが、「注意マーク」、「ここがポイント」、「もう一度考えよう!」、「学びを活かして考えよう」など。あとは、「問い」ですとか「結果の見方」、「考察のポイント」等々。「E」も、同様に盛りだくさんの工夫がございますが、「A」については、構成上、目障りでなく、見やすくすっきりとした構成になっております。

それから、三つ目でございますが、関連分野についてでございますけれども、(3学年用)130ページの「力の合成と分解」というところがございますが、このところでは数学に関わった、関連したものを取り入れております。「基礎操作」として「平行線のかき方」、「力の合成」、「力の分解」というところがございますけれども、そういった部分で発展的な学習活動が非常に大切であろうかと思っておりますので、こういった関連性も大切な一つであると思っております。

そのほか様々、「大陸」と名付けた、「はたらき大陸」、「ふしぎ大陸」、「エコ大陸」、「防災大陸」など、そういった形でまとめてありますので非常にわかりやすいかなと、このように感じました。

よって、「A」ということで推薦をいたします。

以上です。

### ○横川委員

私も、「A」を推薦いたします。

この教科書の選定で勉強してまいりまして、各教育委員の中でお互いに話をし、理科

はどうも成績が悪いから、大田区何とかせにゃいかん、という意見が出ました。私は職業柄、理科が専門と言え言えないこともないわけですが、大田区の子どもたちの足りないところ、やはりほかの科目と共通して言えるところは、自分で考える、というところでございます。

先ほどから出ておりますが、理科にとって一番大切なことの一つは実験でございます。実験の計画を立て、実験の仕方、そしてその結果をまとめ、そして考察、考察は自分で考えるところでございますが、予想と違う結果が出た場合、異なる結果が出た場合、それがどうして出たのかということを考えさせる、自分で考える、あるいはみんなで話し合わせるところが特に大事ではないかなと思いました。そうすると、「A」では「解決方法を考えよう」というコーナーで詳しく、その差とそれについての分析を行っているわけです。ですから、そういうことが実験では特に大事なのではないかな、というふうに思いました。

それから、これはもう意見が出ましたけれども、理科をどうして学ぶのかということ、そして、学んだ理科のことをどうやって有用性を持たせて現実につなげるのか、というところを授業で一生懸命説明して子どもたちに教えてもらいたいというふうに思う、というところから考えますと、やはり「A」が、その辺では配慮が非常に随所に出ているのではないかな、というふうに思いました。

それから、先ほどから教育長の御意見がございましたけれども、「from JAPAN ニッポンの科学」、これは私も見てとても興味を持ち、理科を学ぶことによって日本の科学が進歩して、日本がある意味では国際的にも認められているというところが「from JAPAN ニッポンの科学」というところによくわかる、というふうに思いましたので、「A」を推薦いたしました。

## ○藤崎委員

結論から言いますと、私も、「A」社になります。

個別のポイントについては相当重複するところがございますので、お伝えしたい根底のところだけ申し上げます。

先ほど横川委員がおっしゃってくださったとおり、我々の中でやはり大田区の子どもたちの理科の力というのが、どうしても気になっている。気になっているというのは、要は上げたいと。上げるためには何が必要なのかということ、彼らが好きになるかどうか、理科に興味を持つかということと、どうすれば一つ一つ手順を踏んで考えられるか。この二つをどう理解するのかというのは、子どもたちだけでは絶対にできないはずであって、先生が理科が好きでないと、これは無理でしょう、というのが私の考え方。

ということは、教科書というのはあくまでもツールですから、教科書を使って、手順を踏んで、自分が子どもたちに正々堂々と自信を持って教えられるかどうか、という観点で見たときに、先ほどもいろいろな項目がございました、興味・関心を引くところはほかの会社でもたくさんありますが、手順を踏んで基礎・基本というところを、例えば、目的意識を持たせるための実験観察の目的ですとか、レポートの書き方ですとか、まずは先生が読みながら、そうですよね、という確認をさせていただいて子どもに伝えていく、ということであると、やはり「A」社が一番適しているのではないかなと思ひまして、他の項目もありましたけど、その観点をつけ加えさせていただいて、私は「A」社というふうに思い

ました。

### ○芳賀委員

私も、「A」がよいと思っております。

重複しますので、簡単にいたします。

各社、どの教科書にも科学を学ぶ動機付けを高めるために、中学生の学ぶ科学と実社会とのつながりを示す記事が、それぞれ工夫されて書かれているわけです。その中でも、「A」社の「from JAPAN ニッポンの科学」というのは、今までにも幾つも御紹介されていましたが、大田区の下町ボブスレーの例であるとか、「はやぶさ」のイオンエンジンの件、あるいは「再生医学への挑戦」ということでiPS細胞など、非常に工夫され、また私のような大人が見ても読みごたえのあるような内容があり、大変興味を引くものとなっております。

これによって、自分が勉強する延長線上にはこんなこともあるのだな、というようなことで興味を持ってもらえると思うと大変うれしいと思いました。

以上でございます。

### ○委員長

私も、「A」を推薦します。

理由はほとんど同じで、教育長から始まった理由のほとんど、それに尽きるのですけれども、この間、数百時間に及んで勉強させていただいたので、ちょっと話をさせてください。同じ内容になると思います。

第一は、大田区の学習効果測定の結果から、大田区の生徒は基礎的、基本的な知識、技術を確実に定着するということが課題です。「A」社は、基礎的、基本的な知識、技術を確実に習得する工夫があります。探究の流れが明確で、課題に対するまとめが明示されています。また、「ここがポイント」、「チェック」、「例題」の欄を設定し、基礎的、基本的な知識、技術を確実に定着できると考えました。

第二に、平成 26 年度の大田区学習効果測定や東京都の学力調査の結果から見ても、残念ながら結果がよくないです。私は東京都の教師を目指す大学生に、5年間、理科を教えてきました。その中で、理科の学力を向上させるためには、目的意識を持って観察、実験を行うことと、観察、実験の結果を丁寧に考察、表現することと考えております。「A」社は、観察、実験の目的が明確になっております。また、観察の結果の考察も重視しております。大田区の学力の向上に適した教科書と考えました。

第三に、観察、実験での安全性の配慮が重視されています。安全に観察、実験を行うための注意のマークが目立つように構成されています。また、なぜ気をつけなければいけないのかの理由も明確に説明されています。

第四に、大田区の生徒の課題である基礎・基本を確実に習得する工夫が充実しております。章の最初と最後に「before & after」、「例題」、「練習」、「確認」、「学びを活かして考えよう」、「章末チェック」、「学んだことをつなげよう」等、各活動や交流活動を通して、振り返りを繰り返して基礎・基本の確実な習得を図っております。

第五に、科学への関心・意欲を高めることを重視しています。授業の導入時において、

生徒が興味・関心を高める疑問や不思議を持つ知的好奇心を刺激するための身の回りの生物や日常的に目にする現象を考えさせています。興味・関心を高める写真やイラストが取り上げられています。また、「科学でGO!」でも科学への関心を高めます。

第六は、科学的な読み物の本の紹介があります。読書は、文学的な作品を読むだけではないです。私は、それぞれの教科の内容にあった本を紹介する必要があると考えます。科学的な読み物の紹介の「科学の本だな」の欄は、科学的な読み物への興味・関心を高めるのに大変有効であると考えます。

第七に、大田のものづくり工場が紹介されており、身近なものが教材に掲載されて、興味・関心・意欲を高めるとともに、大田区のものづくりのすばらしさに触れることができるのではないかと考えます。

#### ○委員長

それでは、審議のまとめをいたします。

審議の結果、「A」社を評価する意見で一致いたしました。

理科については、「A」社がよいということでもまとめてよろしいでしょうか。

(「異議なし」との声あり)

#### ○委員長

それでは、理科については、「A」社といたします。

#### ○委員長

続いて、音楽（一般）について審議します。音楽（一般）の発行者は、2社あります。

委員の皆様、御意見をお願いいたします。

#### ○教育長

私は、音楽（一般）については、「H」を推薦させていただきます。

理由ですが、まず第一に、中学1年の教科書の見開きの口絵では、「静けさと日本の音」と題して、鐘や水の音、虫や鳥の声などの日本の音、そして、その音を引き立てる静けさに目を向けさせ、日本人の感性をクローズアップしています。また、中学2・3年の教科書の口絵では、中学生によって上演される歌舞伎や、正倉院に伝わる宝物（ほうもつ）の琵琶が紹介されるなど、日本の伝統文化に目を向けさせるものとなっており、評価できると考えました。

第二に、中学1年の創作活動に取り組むページでは、「イメージをもとに、構成を工夫して音楽をつくろう。」としており、例えば、船が近づいてきて通り過ぎ、遠ざかっていく場面で、どのような船か、天気や波の様子はどうかなどを想像しながら、それを音楽であらわす活動を設定しています。音楽づくりには、その前提として豊かなイメージが大切であること、また、それを表現するために音の高低、強弱、音色がポイントであることを述べており、評価できる学習活動であると思いました。

同様に第三に、中学1年の「指揮をしてみよう!」のページでは、指揮をするときのポイントとして、指揮者が、歌詞や曲について自分のイメージを持つことが大切であるとしており、その上で歌詞や曲の雰囲気も顔の表情や体全体の動きで伝えることの大切さが書

かれています。重要なポイントがしっかり説明されていると思いました。

第四に、オーケストラの紹介が見開き2ページで大きく紹介されており、個々の楽器も見やすく表示され、学習の参考として活用できます。

以上が、「H」を推薦する理由です。

### ○鈴木委員

結論から申しますと、私は、「H」を推薦いたします。

まず、今、教育長がお話しの件も同様の点でございますけれども、まずは、ここは2社でございますが、私については、「H」について、細かく見てまいりました。

一つ目は、日本の伝統文化ということでございますが、学習指導要領でこれは示されておりますけれども、箏箏（ひちりき）を扱っております。非常に珍しいというか、興味深く拝見いたしました。関心と理解を深める、そういったことで、伝統文化に対することへの紹介について、興味を持ちました。

それから「H」では、基礎学習が大事であることから、小学校の基本的な学習を復習するページが全ての学年で確認できるように構成されております。また、1年生のところで、双方ともこれは入っていますが、リコーダーから入っております。「H」は、3ページにわたって詳しく入っておりまして、説明もわかりやすい、そういったレイアウトになっております。流れで入りやすいかなと、このように思っております。

それから、大田区の現状を踏まえて考えますと、和楽器についての研修があったり、計画的に和楽器に触れたり、またオーケストラ教室の実施もあるということでありますから、オーケストラの構成について、「H」のほうでは2ページにわたって、楽器紹介とともに1枚の写真で掲載されていて、非常に見やすくなっております。

また、終わりのページのほうに、「音楽の約束」として、五線譜ですとか音符、休符、拍子記号など、あとは音階ですね、用語等がまとめて掲載されて、一目でわかるような形になっております。

音楽を通して、まず世界が広がるという部分においては、そこから様々な歴史的な部分も見えてきますし、世界を知ることができると思います。音楽のジャンルはたくさんございますけれども、それを広く紹介いたしております。耳慣れた外国の曲を教材とすることで、非常に楽しく学べるのではないかと思っております。

最後に、年齢的に見ますと、ちょうど変声期でございます。声変わりをするところですが、私は、毎回このことについて大切だなと思っております。事例が一つございますが、変声期のときに、非常にそのことに対して無理がたたって、そのままずっと声変わりがきれいにできなかつた。そのことによっていじめに発展するとか、あるいは、それをのちまで引きずって、成人してからもずっと医療を継続していかなければいけない、そんな経緯がございました。それを考えてみますと、こここのところは、声変わりは誰もがやるから簡単に通り過ぎるところかなと思いがちですが、これも一つの大切なことで、必ず先生には、こういうことも取り上げてやっていっていただくとありがたいと、このように思っております。1年生のところに出ております。

よって、「H」ということで、推薦いたします。

### ○藤崎委員

「G」と「H」という2社なのですが、私も「H」を推薦いたします。

個別の中身ということではなく、それは他の先生にお任せして、一言で言うと、「G」社のほうはいろいろなものが網羅されていて、しかも指導しがいのあるほど高度なものが集まっている。一方、そこと比べた場合、「H」社の場合は、それよりはややシンプルというようなイメージがございます。

私の考えとしては、芸術系、音楽に限らず、このあとくる美術などですけど、どれだけイメージを持って好きになるかということではあるのですが、こと音楽につきましては、そこに楽器というのが入ってきて、笛も吹かなければいけない、リコーダーを吹かないといけない、いろいろやって、できる人とできない人で大きく差が開くわけにはいかないとすると、そこにも時間を割かなければならない。ただし、割かれている時間というのは、第1学年で45時間、第2学年、第3学年で35時間しかない。すると、週に1回しか、授業としてはない。という場合に、このあとの音楽（器楽）ということも含めて学習して学んでいくためには、材料としての補佐という意味での「G」社は評価するのですが、指導する、それを習得して前に進んでいくという生徒側からすると、やはり「H」社というのが無難なのかなというふうに思い、「H」社を推薦いたします。

### ○芳賀委員

私も、今の藤崎委員の意見と同じでございます。

「G」のほうは非常に説明が詳しく、例えば、歌舞伎の勧進帳の説明などは、本当にびっくりするぐらい詳しくて感心したのですけれども、ですから読み物として私なんか読む分には非常に楽しいのですが、ただ、授業の材料としては少し重過ぎるというか、詳し過ぎるのかなと。まさに今、藤崎委員が御指摘になったような意味合いにおいて、ちょっと違うかなと思い、私は「H」のほうが良いのではないかと、そのように考えました。

以上です。

### ○横川委員

私も、「H」です。

もう意見はいろいろ出たのですが、一言で言うと、私も「H」の教科書だったら勉強したいなど。音楽が嫌いではないのですが、もうちょっと中学生のときに一生懸命やっておけばよかったなど。そうすると、一生懸命やる子が増えるのではないかと思ったので、「H」がいいのではないかなと思いました。

### ○委員長

私も、「H」を推薦します。理由は、次のとおりです。

第一に、大田区の子どもの実態や音楽の授業数を考えると、適切であると考えました。目標とする学習内容が明確に設定され、ヒントとする説明が随所にあります。また、書き込みのページも多く、メリハリのある授業ができるのではないかと思います。

第二に、目次の次のページに「音楽学習MAP」のページが設定されていて、学習目標や学習内容が一目でわかり、生徒が意欲を持って取り組み、基礎的な学習内容の確実な定

着を図ることができると考えました。

第三に、イラスト、写真が大きく、見やすくわかりやすいです。また記述も平易でわかりやすいです。さらに、生徒に親しみやすい曲が多いなど考えました。

第四に、小学校との系統性があります。小学校の基礎的な学習を復習するページが第1学年から第3学年まで、全ての学年で確認できるような構成になっております。

#### ○委員長

それでは、審議のまとめをいたします。

審議の結果、「H」社を評価する意見で一致いたしました。

音楽（一般）について、「H」社がよいということでまとめてよろしいでしょうか。

（「異議なし」との声あり）

#### ○委員長

それでは、音楽（一般）については、「H」社といたします。

#### ○委員長

続いて、音楽（器楽）について審議します。音楽（器楽）の発行者は、2社あります。

委員の皆様、御意見をお願いいたします。

#### ○教育長

音楽（器楽）につきまして、私は、「H」を推薦させていただきます。

理由ですけれども、まず第一に、音楽の授業で扱う機会の多いリコーダーの解説において、「Q&A」や、「音を合わせるときのコツ」などのコーナーを設け、丁寧な説明を心がけていると思いました。

第二に、運指が横書きで見やすい点がよいと思います。

第三に、打楽器が掲載されているのも特徴の一つで、学習者が参考にして活用できると思いました。

以上です。

#### ○藤崎委員

私も、「H」社になります。

先ほど、音楽（一般）のときの理由を申し述べたとおりで、基本、授業のときに使うのは、この2冊を一遍に持つてくるという前提で考えますと、教えているトーンですとか、そういうものが、やはりかぶっていたほうがいいたろうと。

何か大きくこちらのほうが抜けているとか、増えているとか、そういう大きい違いはございませんので、音楽（一般）のほうとあわせて、子どもたちがスムーズに前に進んでいけるということを前提に考えると、音楽（一般）と合わせた「H」社がいいというふうに思っております。

#### ○鈴木委員

私も、同じく「H」社を推薦いたします。

藤崎委員から今お話がございましたが、私も、先ほどの音楽（一般）と同一発行者のものの方が、便宜上よろしいと思いました。それで「H」にいたしました。

先ほど、打楽器については、教育長のほうからお話がございました。時間数の問題もございましたので、扱いやすいかな、取り組みやすいということで考えております。

それと、音楽というのは、音を楽しむ、ということですがけれども、音で表現する、音を鑑賞する、楽しんで感性を豊かにする。美術と同様ですがけれども、芸術面や情操面などを養うための大切な教科であると言えます。情操の面では、非常に大きい活躍をする教科だと、私自身は思っております。ぜひ楽しんで学んでいただくということがよろしいかと思っております。

それから、「H」で興味深いところは、篠笛（しのぶえ）を使って、地域にどんな伝統音楽があるのか調べよう、というところがございますけれども、身近なところで、自分の住んでいるまちの中でどういった音があるのかなと探してみるのも、楽しいことの一つだろうと思っております。

「H」を推薦いたします。

#### ○横川委員

私も、「H」です。

先ほどの音楽（一般）と大体理由は一緒なのですが、子どもたちが親しみやすい曲がたくさん載っている。それから楽器も、割と親しみやすく、やりやすい楽器が載っているということからして、ほかにも理由は幾つかありますけれども、「H」を推薦いたしたいと思っております。

#### ○芳賀委員

私も、「H」がよいと思っております。

もう、ほかの方たちと理由は重なっておりますし、あと、現実問題として、音楽（一般）のほうとやはり教科書はそろえたほうが何かと都合がいいことは間違いないだろうと、そのように思っております。

したがって、「H」がよいと思っております。

#### ○委員長

私も、「H」を推薦します。理由は、次のとおりです。

第一に、目次の次のページに「音楽学習MAP」のページが設定されていて、学習目標や学習内容が一目でわかり、基礎的な学習内容の確実な定着が図れるのではないかと考えました。

第二に、大田区の生徒や時間数を考えて、大田区の生徒に合っているということです。全体的に練習曲が平易で、基礎・基本となる親しみのある曲が多く選曲されています。

第三に、各楽器の基本的奏法が、文章とイラスト、写真を用いて美しくわかりやすく説明されています。楽器への興味・関心・意欲を高めております。

第四に、和楽器の解説や奏法が非常にわかりやすく、大田区が生徒に計画的に和楽器に触れさせている方針と合致していると考えました。それから、写真や楽譜の印刷もとても

鮮明です。

#### ○委員長

それでは、審議のまとめをいたします。

審議の結果、「H」社を評価する意見で一致いたしました。

音楽（器楽）については、「H」社がよいということでまとめてよろしいでしょうか。

（「異議なし」との声あり）

#### ○委員長

それでは、音楽（器楽）については、「H」社といたします。

#### ○委員長

続いて、美術について審議します。美術の発行者は、3社あります。

委員の皆様、御意見をお願いいたします。

#### ○教育長

私は、美術に関しましては、「J」を推薦させていただきます。

理由ですが、まず第一に、全学年の教科書の巻頭、巻末の見開きに谷川俊太郎の「うつくしい！」という文、詩とあっていいものですが、載せられています、その内容がすばらしく、他教科である国語とのリンクが見事であると思えました。

第二に、中学1年の教科書の巻頭の見開きには、「感じたことを話し合おう」として、鑑賞は見る側の解釈によって完成するとし、鑑賞者の主体的営為を重視しています。学習者が美術を学習する上で、大切な動機付けとなる場所であると思えます。

第三に、「原寸大で鑑賞しよう」というコーナーでは、『火焰型（かえんがた）土器』、『ゴッホの自画像』、『鳥獣花木図屏風』、『平螺鈿背円鏡（へいらでんはいのえんきょう）』など、作品の一部を原寸大にまで拡大し、また『ゲルニカ』や『鳥獣人物戯画』などは、3ページないし4ページの見開きを使って大きく紹介しており、その迫力を味わうとともに、細部にまで目を向けて鑑賞する機会を与えています。

第四に、巻末の「学習を支える資料」が豊富で、学習の際に参照でき、便利であると思えました。

以上が、「J」を推薦する理由です。

#### ○芳賀委員

私も、今の教育長の御意見と一緒に、「J」がよいと思っております。

今の御意見に加えて、二つばかり理由を付加いたします。

第一に、「J」の教科書は、ポスターの作成例について、生徒がアイデアを生み出し、キャッチコピーを考え、構図や配色を工夫するという、実際にポスターを作成するプロセスを具体的に紹介していただき、生徒が自分で作る際に参考になると思えます。

第二に、これは2・3年のほうですけれども、「特別展示室」として、折り込み見開きでピカソの『ゲルニカ』と合わせて、谷川俊太郎の『生きる』を組み合わせで紹介するページも、大変印象深いものとなっております。『生きる』というのは、あちらこちらで引

用されることの多い詩でして、特に中学生には印象的なものだろうと思います。大田区で採用されている教科書の中で、6年生の最後の卒業直前の時期に、ちょうど『生きる』という詩を学ぶんですね。中学生になって、ピカソの『ゲルニカ』の絵と合わせて、詩と再会するというのも、また新たな感動を呼ぶことになってよいのではないか、そのように思いました。

以上で、私は「J」がよいと思いました。

### ○鈴木委員

私は、いささかちょっと迷った部分もあります。3社ございますが、それぞれ特徴がありまして、「D」については学習のまとめ、それから「J」については制作についての「みんなの工夫」、「O」については遠近法のわかりやすい図式などの、こういった特徴があります。3社とも、感じ取り、発想・想像し、表現する力、それから美術作品で鑑賞能力を高めて文化遺産の理解や見方を深めるなどの題材や資料が、非常にそろっております。

この中で二つ、2社を選択しました。「J」と「O」ですけれども。結果的には、選択は「O」で、推薦をするということにいたしました。

この2社の比較ですが、まず「J」については、表紙の裏のところでシャガールの作品を使っています。また、「O」についてはゴッホの作品を使用しておりますが、まず開いてからすぐに、「O」のほうが、紙面全体でインパクトのある作品が目飛び込んできます。

「J」については、「学習を支える資料」がとても豊富でございまして、興味を引きまします。技法については、「O」より数多く「J」のほうが掲載されているのです。けれども、たくさんの技法を、私自身も知らないものがたくさんありますが、フロタージュですとかコラージュ、デカルコマニーとか。ちょっとわかりませんが、こういう部分は、吹き流しですとか、様々あるのですが、あるということだけにとどめてしまうのかな、とは思っております。

文字のデザインについても、伝統文化の作品、作成の写真を用いているのが「O」でございまして。

それから、「O」については、「学びのねらい」が題材ごとに示されております。学習内容のポイントですとか、道徳の学習と関連する内容も示されています。あとは、焼き物の工程が載っているのですが、これについては「J」よりも非常にわかりやすく、また、冒頭申し上げた遠近法についての図もございまして、非常に理解しやすい説明となっております。

それからもう一つ、「注意しよう！」というのが載っているのですが、感嘆符（！）で注意を促しているんですね。この中で、著作権についても触れられております。こういったところも興味深いかなと思われました。

よって、「O」を推薦いたします。

### ○横川委員

私も、「O」です。

全体的にサイズが大きくて見た目にきれいで、生徒の興味を引き、学習意欲を高めやす

いということ。それから、見開きのページで絵画を大きく扱っており、大変きれいな教科書になっております。

「J」社についても、かなりその部分遜色はないですが、全体的には写真も多く、資料も大きく、それから写真の撮り方もきれいなので、非常に大田の子どもたちにとっては興味を引くのではないかな、とっております。美術ということで、視覚に訴えるというのは、大変大きな選択の要素になるのではないかなと思います。

それから、漫画の表現についても、この「O」では扱っております。漫画を美術というかどうかは、いろいろ意見の分かれるところでございますが、現代は漫画をなくしては語れない部分もございますので、漫画を扱っているというところも推薦する一つの理由になっております。

以上、「O」を推薦いたします。

### ○藤崎委員

私も、「O」です。

今回の美術については、先ほどの音楽と実はちょっと考え方が違いまして、同じ芸術系ではあるのですが、1ページ目からどンドン、1ページ目、2ページ目と繰り返していくような教科書ではない、ということを見ると、どれだけ子どもたちに「こんなものがあるんだ!」とか、「え!」とか、「お!」とか、どれだけ驚嘆を与えるかというところが、私は特に美術の場合は大切だと考えております。

授業数は、先ほどの音楽と全く一緒です。週1コマ、ないしは1. いくつというぐらいのレベルで、実際には同じものを作ったり、云々かんぬんとやっていくので、ページを一つずつめくっていくような教科書である必要はない。

そうすると、驚きをどれだけ汲んでいるかという観点で、先ほどの言葉を使わせていただきますが、例えば、見開きの「O」社の「三十三間堂」の写真のあのダイナミックさですとか、例えば、浮世絵、実寸大の浮世絵で浪裏（なみうら）富士（葛飾北斎の『富嶽三十六景 神奈川沖浪裏』）とか、赤富士（葛飾北斎の『富嶽三十六景 凱風快晴』）などを扱っているページの紙質を工夫して和紙で作っていて、手ざわりで訴えている。決して視覚だけではなく、体感覚も使って刺激を与えようとしている、この工夫というのは非常に子どもたちにとって刺激を与えるものであると。それによって、彼らの美術に対する興味ですとか、創作意欲というところに少しでもつながっていけばいいな、とっておりますので、私はその理由から、「O」社を推薦したいとっております。

### ○委員長

私も、「O」社を推薦します。理由は、次のとおりです。

第一に、題材のページの上部には4観点の「学びのねらい」が明確に記述され、生徒が主体的、かつ効果的に取り組めるようになっております。また、学習内容のポイントを題材ごとに具体的に示してあり、とても効果的であると考えました。

第二に、見開きで和紙を使っているページがあり、本物の作品の質感を鑑賞できます。また、写真の精度が高く、発色や配色にすぐれていて、子どもたちが感動するのではないかと思います。

第三に、美術作品と生徒の作品のバランスもよく、作品も大きく掲載されており、迫力があります。また、構想の手がかりとなる言葉が多数掲載されており、制作への意欲が駆り立てられると思います。さらに、授業がイメージできる紙面で構成されていると考えました。

第四に、道具の基本的な使い方や安全について、明確に示されています。特に安全については、「注意しよう！」というマークをつけて示していて、安全配慮が充実しております。

#### ○委員長

それでは、審議のまとめをいたします。

審議の結果、「O」社を評価する意見が多かったように思います。

「J」社を評価する意見もございましたが、1社に絞るとしたら、評価する意見が最も多かった「O」社であろうと思います。

美術については、「O」社がよいということでもまとめてよろしいでしょうか。

(「異議なし」との声あり)

#### ○委員長

それでは、美術については、「O」社といたします。

#### ○委員長

続いて、保健体育について審議します。保健体育の発行者は、4社あります。

委員の皆様、御意見をお願いいたします。

#### ○教育長

保健体育は、私は、「L」を推薦させていただきます。

理由ですが、まず第一に、各節の展開が、「Question-クエスチョン-」から始まり、本文、それから必要に応じて「Try-トライ-」、「Challenge-チャレンジ-」、「学習のまとめ」と要領よくコンパクトにまとめられています。また、本文が薄黄色の下地になっているなど、紙面が見やすく、レイアウトもよいと思いました。

第二に、オリンピック・パラリンピックについては、教科書冒頭の口絵とトピックで紹介しており、トピックでは、長野大会から始まった「一校一国運動」も紹介されております。5年後のオリンピック・パラリンピック東京大会の開催を控えて、時宜にかなった紹介だと思えます。

第三に、「犯罪被害の防止」の箇所では、中学生にとっても大きな問題となりつつあるネットワーク利用犯罪について、「コラム」欄で取り上げるとともに、「活用」欄で生徒たちに考えさせる内容となっています。

第四に、喫煙、飲酒、薬物乱用の各単元では、「Challenge-チャレンジ-」で、例えば、「『違法』でなければ薬物を使いますか?」というテーマを設定して、危険ドラッグについて学習者に考えさせる活動をし、その取り組みを通じて注意を促しています。危険ドラッグについては、児童・生徒に波及させないことはもとより、根絶に向け、今以上に努力が必要であることから、大切な学習活動だと思えます。

以上が、私が「L」を推薦する理由です。

#### ○横川委員

私も、「L」を推薦いたします。

今の教育長の御意見にもありましたけれども、資料のレイアウトが非常に見やすく、図や表がわかりやすい。それから、「Challenge-チャレンジ-発展」コーナーがあって、例えば、「自分の身体活動レベルを計算してみよう」というところがありまして、学んだ知識を自分で計算して応用するというところ、こういったところに観点が重要視されていると思います。

それから、実際ががんの写真などを掲載しており、中学生の子どもたちの興味を持たせるほか、実際にわかりやすい、説得力があるというところがございます。「感染症と病原体」のところでも、表や図が整理されており、色使いも大変見やすく、実際のウイルスや細菌の電子顕微鏡写真などが出ており、生徒の興味を引きやすいというところ、全体的に非常によくできた、検討された教科書だと思います。

#### ○藤崎委員

私も、「L」社になります。

一つずつの項目については、先ほど委員がおっしゃっていたことですし、これから発言される委員も全て丁寧に見ていらっしゃるの、同じところに気づかれていると思うのですが、一点、私が違う点で言うのであれば、保健体育の場合、現状、中学生からすると興味のある項目と興味のない項目が明らかに分かれると考える。そうすると、指導側からすると、子どもの興味があろうがなかろうが、しっかりと単元を前に進めていかなければいけない、ということを見ると、先ほどから出ていますフォーマットですとか、質問、「Question-クエスチョン-」から入っていくですとか、この一つの型がしっかりできているなど思ったのが「L」社になります。

もちろん、喫煙のところ、薬物のところ、個々にすぐれているかどうかというところは見ていったのですが、最終的に私が一番重視したのは、先生が一つ一つの単元、興味・関心の度合いが大きく男性・女性でも変わってくる、よって、保健体育については、授業をしっかり構成させるための型、というのを重視して、「L」社を選びました。

#### ○芳賀委員

私も、「L」がよいと思います。

既に、もういろいろ御意見出ているのですけれども、「L」社について私がいいなと思っているのは、飲酒、喫煙、薬物の害についてのページが非常に充実している、本文部分が充実しているということが一つ。

あと、口絵のところ、喫煙によって真っ黒になった肺や、飲み過ぎで色が変わってしまった肝臓であるとか、シンナーを使ってスカスカした脳の写真が、他社に比べて大きく非常に鮮明に写してあります。

このテーマは、子どもたちにはある程度衝撃を与えるぐらいのほうがいいと思っておりますので、やはりこういうところは大事だなと思っております。よって、「L」

がよいと思いました。

### ○鈴木委員

皆さん、今、縷々御説明ございました。重複の内容を考えておりましたのですけれども、結果を申しますと、私も、「L」社を推薦といたしました。

別のところと言いますと、心肺蘇生法ですとかAEDの使い方などが扱われているということです。それと、「心身の機能の発達と心の健康」のページでは、非常にわかりやすい説明と見やすいレイアウトである。相対的に使い勝手がいいなということでございます。

皆さん、お話のように非常にわかりやすい。

各単元にですが、「学習のまとめ」、学んだことを振り返って、そこから生かそうということ、それから、生かして広げよう、というところの部分では、随所に載っておりますので、そういったところで振り返りながら、改めて確認をするというページがあるということです。

章末には、「学習のまとめ」が掲載されておりますが、そのほかにオリンピック・パラリンピック、自然の災害や身近な題材で関心を高める工夫が学習意欲につなげているなど、このように思いました。そして、「L」といたしました。

以上です。

### ○委員長

私も、「L」を推薦します。理由は、次のとおりです。

第一に、1単位時間の学習内容が、見開きの2ページで構成されており、重要な学習項目は、4ページで構成されていて、とても理解しやすくわかりやすいです。

第二に、生徒に、導入で学習意欲や学習動機を高めるための「Question-クエスチョン-」の発問で始まり、そして、「学習のまとめ」で学んだことを振り返ったり、学びを生かしたり、学びを広げたりしております。また、「Try-トライ-」によって言語活動を通して身につけていきます。

第三に、図や読み物、「コラム」、「活用」等があり、読み取りのポイントがあるので、考えることが明確です。

第四に、新しい課題でもある「薬物乱用と健康」に関して適切に扱っています。また、熱中症の症状や応急手当などが、詳しく説明されています。

第五に、大田区教育委員会が取り組んでいるいじめ、不登校の問題を取り扱っているということです。「ストレス対処と心の健康」の欄が設定され、大田区に適した教科書と考えます。

### ○委員長

それでは、審議のまとめをいたします。

審議の結果、「L」社を評価する意見で一致いたしました。

保健体育については、「L」社がよいということでまとめてよろしいでしょうか。

(「異議なし」との声あり)

### ○委員長

それでは、保健体育については、「L」社といたします。

### ○委員長

続いて、技術・家庭（技術）について審議します。技術の発行者は、3社あります。委員の皆様、御意見をお願いいたします。

### ○教育長

技術・家庭のうちの技術につきまして、私は、「A」を推薦いたします。

理由ですが、第一に、教科書冒頭の技術分野のガイダンスにおいて、「あなたの夢が未来を変える」、「創意・工夫の力が技術を支える」、「持続可能な未来を創るために」、それから、「社会のものづくり見てみよう」、そして、「技術分野の学習で育った力が未来を創る」という展開が、学習者の技術の学習に向けた意欲を育み、また、技術について見通しを持つことができるものとなっています。また、大田のまち工場が紹介されているのもよいと思いました。

第二に、教科書のサイズが大きく、色使いも見やすくよい点が挙げられます。

第三に、実習例も豊富に掲載されておりまして、その点もよいと思いました。

以上が、私が「A」を推薦する理由です。

### ○藤崎委員

私は、「D」社を推薦したいと思います。

この理由なのですが、まず一つには、見やすさです。何で見やすいと思ったかというところ、各単元ページを開きますと、開けた段階で、すぐタイトルの横に「学習の目標」というのがしっかりと出ていて、まず、ここの単元では何をすべきなのかというところが、基本2ページで、重要なものについては、3ページないしは4ページで構成されていますが、それで、教師のほうも生徒のほうも、何をやるのかというのがわかりやすいレイアウトに項目ごとになっている、というのが挙げられます。

加えて、右上のページの端っこですね、そこに、その単元ないしはその箇所で、何をを使うのかという道具が、一つ一つ写真をもって提示をされている、というのも参考になるのかなと思っております。

その細かな配慮、授業を進めていくという観点も含めた上で考えると、私は「D」社がいいと思っております。

### ○鈴木委員

私も、結論からいきますと、「D」といたしました。

学習指導要領では、四つの内容を示しております。「材料と加工に関する技術」、「エネルギー変換に関する技術」、「生物育成に関する技術」、「情報に関する技術」。これらについて、学習の項目ごとに「学習の目標」が細かく示されています。

各内容の冒頭では、技術の変化を年表形式で提示をしているほかに、技術の評価活用、「ふり返り」ですとか「学習のまとめ」等で構成され、内容も充実しているなどと思ってお

ります。

内容の最後のまとめですが、学習の自己評価、学習内容を生活にどう生かすかを考えることができるとともに、「進んで技術の評価し生活をよりよくする」というページでは、3年間のまとめのページとしております。

いずれにせよ、家庭科（技術）のほうでは、日常生活の中で、それぞれが様々なところで活かしていかないといけない、生きる力となりますので、こういった点で非常に見やすく、わかりやすい。そして、常に、これ1冊ありますと様々なことが、家庭に置いておいて学べると、そんなふうに感じました。よって、「D」を推薦いたします。

### ○横川委員

私も、「D」を推薦いたします。

実際に、写真が多く使われている。情報量が多い割にはコンパクトに、しかし、きちんと整理されて書かれているということで、見やすい、使いやすいと感じました。

「A」も、全体的に大きく、記載内容も丁寧でわかりやすい書き方なのですが、それでも、「D」のほうも、「A」に比べてコンパクトではあるものの、内容、必要なことはきちんと書かれており、情報量も恐らく遜色ないのではないかと。そういった観点から、中のレイアウトを見ると、割とまとまっています、教科書として使うには「D」のほうが見やすいのではないかな、と思ひまして、「D」を推薦いたしました。

### ○芳賀委員

私も、「D」がよいと思います。

ほかの意見も全くそのとおりでと思うのですが、それに加えて、技術の評価する、活用する方法を考えてみよう、という單元があるわけですが、そこで、「社会的側面」、「環境的側面」、「経済的側面」という三つの視点で検討するんだよ、ということを明確に提示しております。ある技術の評価するというのは、大人でも難しいわけです。ポンと渡されて、評価してみろと言われてたときに、どうしていいかオタオタしてしまうわけですが、逆に、これを身につけておけば、大人になってからでも役に立つ技であると思います。

このように明確な評価手法を提示してあることは、実践しやすく、大変よいことだと思います。それで、「D」がよいと思いました。

以上です。

### ○委員長

私は、「A」社を推薦します。理由は、次のとおりです。

第一に、各内容とも、「導入」から基礎・基本を押さえる「基本ページ」、「学習のまとめ」という流れで、基礎・基本が確実に習得できると考えました。また、教育長の御意見にあったように、学習の「ガイダンス」として、3年間の見通しをもって学習に取り組めるようにしてあります。写真やイラストも多く、興味・関心・意欲をもって取り組めるのではないかと考えました。

第二に、ものづくりのまち大田に適している教科書であると考えます。実習例は、見開

きで、わかりやすい手順で示されています。写真やイラストを多く使ってわかりやすいし、生徒の興味・関心を高めています。また、「ポイント」が説明され、生徒が実際に制作や作業がしやすいのではないかと考えます。それで、家庭でも活用できると思います。

第三に、基礎・基本の定着のための工夫があります。各領域の終わりに「学習のまとめ」があり、理解度の確認と「生活に生かそう」があります。学習の終わりにまとめの活動があり、学習内容が定着すると考えます。

第四に、栽培暦（さいばいごよみ）が見開きで3ページとっていて、栽培の基礎・基本が定着します。植物に関して苦手な大田区の子どもの実態に合っているのではないかと考えました。

第五に、大田区の工場が紹介されており、身近なものが教材に掲載されて、興味・関心・意欲が高まるとともに、大田区のものづくりのすばらしさに触れることができると考えました。

### ○委員長

それでは、審議のまとめをいたします。

審議の結果、「D」社を評価する意見が多かったように思います。

「A」社を評価する意見もございましたが、1社に絞るとしたら、評価する意見が最も多かった「D」社であろうと思います。

技術・家庭（技術）については、「D」社がよいということでまとめてよろしいでしょうか。

（「異議なし」との声あり）

### ○委員長

それでは、技術・家庭（技術）については、「D」社といたします。

### ○委員長

続いて、技術・家庭（家庭）について審議します。家庭の発行者は、3社あります。

委員の皆様、御意見をお願いいたします。

### ○教育長

技術・家庭の家庭につきましては、私は、「D」を推薦させていただきます。

理由ですが、第一に、家庭分野の教科書冒頭のガイダンスが「自立」、「共生社会」、「持続可能な社会」、「人やものとかかわりながら学ぼう」と展開しており、押さえるべきポイントが端的に述べられ、学習の見通しが立てやすいものとなっています。

第二に、「家庭の仕事を支える社会」の箇所、家庭を中心に、その外周に家庭を支える仕事を配置した図が、わかりやすく有効だと思いました。

第三に、「探求」や「発展」のコーナーが豊富に用意されており、学習意欲につながる興味深いテーマや、知っておくべきテーマが提供されています。例えば、「探求」では、「男女共同参画社会」がテーマとして取り上げられていますが、その中で、仕事などにかける時間と家事などにかける時間の夫と妻の比較が国別に掲載されています。このような比較によって、夫婦の役割分担の日本的な特徴がある程度明らかになるわけですが、こう

いったデータをもとに中学生が話し合いをし、これからの夫婦のあるべき姿について考えるのは大切なことであると思います。また、「発展」では、「豊かな衣生活・住生活の実現」をテーマに、「ユニバーサルデザイン」や「リノベーション」、「シェアハウス」などを紹介していますが、「リノベーション」の事例として、大田区の「大森ロッヂ」が紹介されている点は、身近な場所が取り上げられていて評価できます。

第四に、「事例を通してトラブルへの対応を考える」という箇所では、特に中学生に多い消費生活のトラブルを取り上げ、そのトラブルへの対応を考えさせるものとなっています。中学生の陥りやすいトラブル事例にターゲットを絞っていることから、学習者が我がこととして学習することができます。同様に、「事例を通して消費者の権利と責任を考える」という箇所でも、中学生に関係する具体的な事例を挙げ、会社とのやりとりの場面などを紹介しています。プロセスごとの権利と責任を具体的に紹介し、効果的であると考えました。

私が、「D」を推薦する理由は、以上でございます。

### ○藤崎委員

家庭については、私も、「D」社を推薦したいと思っています。

3社あって、一つおもしろい構成になっていたのは、「家族・家庭・子ども」、それから「食生活」、「衣生活・住生活」、それから、「身近な消費生活」とあるのですが、「A」社だけは食事からスタートしているという、非常におもしろいスタートだと思いました。

なぜ、おもしろいと思ったかということ、家庭科と聞いた瞬間に食事、料理というのが思い浮かんで、裁縫から入る人はいないわけで、料理というところから入るという興味・関心は、子どもたちにとっては多分そこから入るだろうなど、私自身もそうでした。

ですけれども、家庭科を学んで料理を作ることではないんだよというところが、先ほど、まさに津村教育長が指摘していただいた冒頭のところで、例えば、「自立に向かって」、「共生社会に向かって」、「持続可能な社会に向かって」、「人やものとかかわりながら学ぼう」、ここが家庭科を学ぶポイントなのですよと。では、まずその身近な家族からというスタート、というこの構成は、ほかのもう一つの「C」社もそうなのはいたのですが、非常に明確になっているというのが一点。

それから、先ほどの技術のところと同じ「D」社になりますので、構成が、やはり一番最初に、タイトルの横に「学習の目標」という、何について学んでいくのか、というところがまず明白になっているというのが二点目。

最後になりますが、中身に入る前に必ず「話し合ってみよう」とか、「考えてみよう」とかということで、すぐに中身に入る前に、1回自分たちでイメージをさせる、想像させる、でどうなのだろうかというふうに入っていくという、これは授業でどう使うかどうかは置いておいて、そういう構成をしっかりと型として置いてあるというところに非常に見やすさ、型の中に入ってくる順番ということを考えて、「D」社が最もいいなと思った次第です。

### ○芳賀委員

私も、「D」社がいいと思います。

今までおっしゃった意見は、もちろんそのとおりだと思うのですが、それ以外に、私は、家庭科というのはやはり実技をする科目である、ということで、実技は、多分、教科書を見ながらやる可能性もあるのだろう、という点から考えました。

私も、料理の本を見ながら自分で料理することがあるわけですが。そうすると、調理の現場というのは、まな板があつたり、ボールがあつたり、仕掛かり中の材料が乗ったトレーがあつたり、調味料があつたりして、非常に混み合っているわけです。しかも、手は濡れているか、ベタベタしているか、粉がついているかという状態でございまして、非常に大変なのです。そういうときに、料理の、こういう家庭科の教科書もそうなのですが、重要なのはコンパクトで場所をとらないことであると。しかも、本がクルッと閉じてしまわないように、クリップか何かで綴じてガチッとしちゃうときもあるわけなのです。

そういう使い方をすることを考えると、教科書の判というのはあまり大きくないほうがいいですし、一つの料理の解説のレイアウトというのは、見開き2ページにわたっていただければ困るのでして、片面だけで完結してもらっていないと困るわけです。そういうことを考えたときに、「D」はその要件を満たしているなということで、「D」がよいと思いました。

以上でございます。

### ○横川委員

私も、「D」です。

今、芳賀委員がおっしゃったように、非常に見やすい、使いやすい。先ほどの技術の教科書についてもそうだったので、パッと見て見やすい、特にコンパクトに真つすぐちゃんと書いてある、半ページでわかるということで、使いやすいのではないかなと思います。その割には、情報量もしっかりと入っていて問題ないと思います。

以上により、「D」を推薦いたします。

### ○鈴木委員

それでは、結論から申し上げます。私も、「D」を推薦いたします。

今、縷々お話がございました。同じような内容で私も考えておりましたが、先ほど、芳賀委員から実技の科目として考えると、というお話がございました。そういった面では、本当に細かいところまでコンパクトで、使いやすいかなと思いました。それ1冊あると、おうちで御自分でも、逆にお母さんが使ってもいいかなという部分も考えたのですが。

あとは、もう一つ、家庭科イコール生活、として考えたときに、これは藤崎委員のお話の中にもありましたが、まずは、一番基本は、家族があつてのことだろうと思います。今、社会的ないろいろな事情で、様々な問題がございまして。家族のあり方みたいなものも問われる時代になってきておりますが、地域では異年齢の方との関わりも少なくなってきました。学習指導要領に示されている四つの内容がございまして。まずは「家族」を取り上げて、次に「食生活」、「衣生活・住生活」、それから「身近な消費生活と環境」の部

分に入っていきわけですけれども、こういった生活の部分で考えて、非常に流れがわかりやすいという形になっているかと思えます。

そして、最後のところには、「生活の課題と実践」ということで掲載しておりまして、また、栄養素と食品群の関係というところでは、「D」のみが見開きで編集されております。非常に、これも系統的につかみやすいかなと、このように思いました。

様々ないいところがあるのですが、含めて申しますと、「A」も「D」も豆知識みたいなものが載っております。「A」の場合はQ&Aですが、これもちょっと興味深かったかなと思えます。豆知識のコーナーを設けて知識が広まるような形、ちょっとした工夫がなされておりました。

以上でございます。「D」といたしました。

#### ○委員長

私も、「D」を推薦いたします。

各委員の内容とほとんど同じですので、一点だけ付け加えさせてください。

小学校の振り返りが取り上げられていて、小学校での学習とのつながりを留意した内容構成になって、系統性が図られております。

ほかは、ほかの委員と同じですので、「D」を推薦いたします。

#### ○委員長

それでは、審議のまとめをいたします。

審議の結果、「D」社を評価する意見で一致いたしました。

技術・家庭（家庭）については、「D」社がよいということでまとめてよろしいでしょうか。

（「異議なし」との声あり）

#### ○委員長

それでは、技術・家庭（家庭）については、「D」社といたします。

#### ○委員長

最後に、英語について審議します。英語の発行者は、6社あります。

委員の皆様、御意見をお願いいたします。

#### ○教育長

私は、「A」を推薦させていただきます。

理由ですが、第一に、教科書のサイズが大きく紙面に余裕があり、見やすいと思えました。また、登場人物などのイラストがきれいに仕上がっています。

第二に、中学校1年の教科書では、小学校の復習と中学校への円滑な導入として、「Hi, English!」がおかれています。小学校の外国語活動で学習した「Hi, friends!」に準拠しており、円滑な接続を図ることができると思えます。

第三に、各単元の話題が旅行、職場体験、ホームステイ、ユニバーサルデザイン、落語、日本のポップカルチャー、フェアトレード、避難訓練など、今日的で生徒の関心をひ

くテーマが選ばれております。内容的にも、興味を持って学習することができると思います。

第四に、準拠教材が多いことは、教師にとっても生徒にとってもメリットになると思います。

以上の理由から、私は、「A」を推薦させていただきます。

#### ○藤崎委員

英語は相当迷いました。結論を言う前に、その背景だけ申し上げます。

英語の場合は、基礎・基本という部分と、英語を学ぶ段階から、英語で何を、今度は、読み書き、表現をするかということであるので、1年生と3年生では全然目的が違ってくるだろうな、というのが私の考え方でございまして、1年生のときは足元を踏みしめると。それをしっかりと乗り越えるという前提で、なのですが、3年生のときには広がりやをどういうふうに持っていくか、将来の活用というところでどう生かすか、ということで見えておりました。

その際に、6社あるのですが、3年生の広がり、ということを考えて、私の中では明らかに、「F」社が広がりを持っております。ただ、いかんせん、この3年生に行くまでの間に転んでしまったらアウトというのが、どうしても英語の場合は新しい学問なので、ありますので、基礎・基本という部分をもう一回振り返ったときに、先ほど教育長が推薦された「A」社と、それから、もう1社、私は「E」社を推そうと思っているのですが、その二つに絞って、どれだけ足元を踏みしめる基礎・基本がしっかりできているか、手厚いか、というところを見ていきました。

「E」社の場合には、「Pre-lesson」から始まり、「Let's Start」、「Chapter」、終わった後はレッスンの「Review」があり、それを「Project」という形で、この構造は大体どの会社もあるのですが、その手厚さということに加えて、1年生の、特に頭の部分なのですが、「Check It Out」というページがありまして、日本語と英語の文法の順番が、倒置がしっかり色分けをされて、それでこう違うんだよ、というのをテクニックに使っているというのがあります。ちょっと私の見間違いだったらあれなのですが、1年生と3年生で色が違っているところがあると私は思ったのですが。

いずれにせよ、日本語と英語を並べて、しっかりと順番が違うことをはっきり知らしめて、それで、次に向かっていくという、この手順を踏んでいるというのが、まず一番最初にひっかかるであろうところをクリアしやすいのではないのかということで、1年生のものの基礎・基本というところに重点を置いて、最終的には、「E」社を私は推薦したいと思っております。

#### ○鈴木委員

今、藤崎委員からお話がありましたように、私も同じような視点から見てまいりました。結果としては、「E」を推薦いたします。

まずは、1年生で基礎をしっかりと学びたい、ということから考えました。難しいとか、無理ですとかという、その意識を持たずに、英語というのは非常におもしろいし楽しいんだという、そういう導入部分がとても大切であるという見方をしました。

私の場合は、藤崎委員がお話ししたよりもっと手前のところで、1年生のスタートをする前に、⑥、⑦で、冒頭から「教室でよく使う言葉」、「こんなときはこう言おう」というお約束事も掲載をしています。まずは、子どもたちは、早く英語で話してみたいという欲求があろうかと思えます。このことについては、非常に楽しいページになるのかなど。まずは、ABCを習う前から言葉が出てくるのですが、これは教室でのお約束ということですので、そんなところから入って、それだけでもちょっとしゃべれると楽しいかな、という雰囲気になろうかと思えます。

それから、ページ4の「Pre-lesson」で、「小学校での活動を思い出してみよう」という既習のページを設けております。自己紹介からアルファベットに入って、つづり、発音へと流れていく構成になっております。こんなところの走り出しがとても大切だと感じました。

それから、2年生になりますと、先ほど、これはもう教育長のほうでの発言がございましたが、「E」のほうでも、「相撲部屋訪問」体験ですとか、これを目標文として新しい単語の掲載ですとか、あとは、「聞く、話す、書く」の活動を充実させるということに重点を置いています。また、3年生では、修学旅行などの身近な体験を題材にしているということなども親しみやすいですし、「日本の伝統文化」、それから「尊敬する人」、英語の歌の挿入や、「アンネ・フランク」を題材にするなど、ほかの分野に関連のある題材を使っているということは興味を持ってもらえるのかなど、このように思っております。

相対的には、コンパクトにまとめられて見やすく、内容も充実していることと、つづりと発音、文法などへの学習活動へとつなげている部分で、よろしいかなと思いました。

大田区の子どもたちは、おおむね成績もよいような方向に向かっていることではありますけれども、書くことから、しっかり聞いて理解ができるというように、学習の軸足が伸びることを期待しているということがございます。

それで、私については、「E」を推薦いたします。

### ○横川委員

私も、「E」です。

大田の子どもたちは、ほかの区もそうかもしれませんが、語彙力が足りない。それから、自分のことを表現する力が弱い。これもほかの教科と共通するところでもあります。あと、正しい文を書く力が不足しているということで、特に、英語ですから英語で書く力が不足しているということで、そういった観点から、自分のことを、どういったことを英語で表現するのか、そういったところ、あまり最初から難しいところからいっても、基本的な部分ができなければどうしようもないので、そういった観点からすると、やはり、「E」を推薦いたします。

そして、特に、大田区は海外派遣を一生懸命やっておりますけれども、それと関係ある項目が、非常に具体的にわかりやすく紹介してありますので、勉強しやすい、興味を持ちやすい、というところから、「E」を推薦いたします。

### ○芳賀委員

私も、「E」がよいと思っております。

ほかの御意見に加えて、私がよいと思った理由を二つ挙げます。

第一は、教科書の判の大きさです。英語に限らないのですけれども、最近の教科書というのは、カラフルなイラストや写真などを多くしまして、子どもたちの興味を引きやすいだろう、ということで作っていることが多いようです。そうしますと、教科書の判を大きくしたほうが、写真やイラストなんかの見栄えがよくなるので、教科書もどんどん大きくなっているという、そういう傾向にあるように思います。

しかし、ほかの科目は別として、英語に関して言えば、やはり大事なものはテキスト、本文なのでしょうと思います。私が古いタイプなのかもしれませんが、中学レベルの英語で言えば、音読を繰り返して、できればテキストを丸暗記するぐらいになることが一番簡単で上達できる早道だと思います。それで、学校の定期試験ぐらいなら楽にいい成績がとれるはずですが、それには、学校の授業の時間だけでは全然足りないもので、自宅に教科書を持ち帰って音読を繰り返したり、あるいは通学途中に見たり読んだりということも当然必要です。その場合には、持ち歩きしやすいように、判はあまり大きくないほうがよいと思っています。6社のうち、小さいほうのB5判の教科書は2社ですけれども、「E」はその一つであって、これが、よいと考えた理由の一つです。

第二に、英検との関係です。中学校の学校公開に行きますと、どの学校でも掲示板に英検のポスターが貼ってあって、生徒に受験するように薦めております。こういうことは、生徒に目標も持たせますし、受ければ自信にもつながるので大変よいことだと思います。中学校3年生では、英検3級を受ける子が多いでしょうし、結構できる子なら準2級を受ける子もいると思います。英検では、3級から、筆記試験以外に、二次試験としてスピーキングの試験があります。受けたことのある方はわかりだと思いますが、英検では、英語の質問に対し、まず結論を言って、その後にその理由を述べるという、欧米流の形で自分の意見を組み立てて、それを英語で発表できる能力が重視されています。

その意味で、「E」社の教科書は、中3で「自分の意見を言おう」というカリキュラムがあります。その中で、例えば、給食とお弁当どちらがよいかについて、理由をつけて自分の意見を発表するというトレーニングを設定しており、こういうことは大変よいことだと思います。これも「E」がよいと思った理由でして、それもあって「E」を推したいと思っています。

以上でございます。

## ○委員長

私は、「E」を推薦します。

各委員の先生方の理由がありましたので、ダブらないように話したいと思います。

第一に、大田区の国際理解教育の推進の方針と合致していると思います。大田区の子どもの実態に合っています。大田区は、小学校1年より外国語活動、イングリッシュキャンプ、英語カフェなどを実施しており、平成26年度の大田区の学習効果測定や東京都の学力調査結果も、本区はよい結果になっております。ですから、教材数とページ数の多い「E」社がよいのではないかと考えました。

第二に、見開き2ページで、左ページは本文と新出単語、右ページに目標文と「聞く、話す、書く」活動を充実させ、さらに書き込み式で記述するように設定され、基礎・基本

が確実に定着できると考えました。

第三に、小学校で取り組んできた外国語活動の復習を、多く取り扱ってあります。中学校の英語学習にスムーズに入れるようになっていきます。私も今、週3回ほど英語を習っているのですが、自宅でも中1の英語の教科書を見て、丸暗記しております。「E」社では、身の回りの英語や挨拶など、「Chapter」に入る前の準備段階を多く取っています。ですから、英語好きな子どもが増えて、よいのかなと思いました。

#### ○委員長

それでは、審議のまとめをいたします。

審議の結果、「E」社を評価する意見が多かったように思います。

「A」社を評価する意見もございましたが、1社に絞るとしたら、評価する意見の最も多かった「E」社であろうと思います。

英語については、「E」社がよいということで、まとめてよろしいでしょうか。

(「異議なし」との声あり)

#### ○委員長

それでは、英語については、「E」社といたします。

#### ○委員長

以上で、教科書採択についての審議を終了します。

では、ここで約30分間、午後4時25分まで休憩をとります。よろしくお願ひします。

( 休 憩 )

#### ○委員長

それでは、教育委員会臨時会を再開します。

日程第2について、事務局職員の説明を求めます。

#### ○事務局職員

日程第2は、「議案審議」でございます。議案を読み上げます。

「第56号議案 学校教育法附則第9条の規定に基づく平成28年度特別支援学級使用教科用図書採択について」

なお、休憩中に議案の追加提出がございました。議案を読み上げます。

「第57号議案 平成28年度使用大田区立中学校教科用図書採択について」

でございます。御審議のほど、よろしくお願ひいたします。

#### ○委員長

それでは、議案審議に入ります。

昨日の第8回定例会と本日の臨時会の二日間で審議をいただきました、中学校教科用図書採択に関する追加議案第57号議案から審議したいと思います。

では、57号議案について、事務局から説明をお願いいたします。

## ○教育総務課長

それでは、第57号議案 平成28年度使用大田区立中学校教科用図書採択について説明をいたします。

平成28年度使用大田区立中学校教科用図書については、7月22日の第7回教育委員会定例会において教科用図書調査委員会委員長から調査報告をいただき、昨日の第8回定例会と本日の二日間にわたり御審議をいただきました。

ここで本案を議案として提出し、平成28年度使用大田区立中学校教科用図書の採択をお願いいたしたく存じます。中学校教科用図書の一覧については、次のとおりでございます。

「平成28年度使用大田区立中学校教科用図書」種目、発行者、書名の順で申し上げます。

国語、光村図書出版、「国語」。

書写、学校図書、「中学校 書写」。

社会（地理）、帝国書院、「社会科 中学校の地理」。

社会（歴史）、東京書籍、「新編 新しい社会 歴史」。

社会（公民）、東京書籍、「新編 新しい社会 公民」。

地図、帝国書院、「中学校社会科地図」。

数学、東京書籍、「新編 新しい数学」。

理科、東京書籍、「新編 新しい科学」。

音楽（一般）、教育芸術社、「中学生の音楽」。

音楽（器楽）、教育芸術社、「中学生の器楽」。

美術、日本文教出版、「美術」。

保健体育、大修館書店、「保健体育」。

技術・家庭（技術分野）、開隆堂出版、「技術・家庭（技術分野）」。

技術・家庭（家庭分野）、開隆堂出版、「技術・家庭（家庭分野）」。

英語、学校図書、「TOTAL ENGLISH」。

以上でございます。

## ○委員長

平成28年度使用大田区立中学校教科用図書について意見はありますか。

（「なし」との声あり）

## ○委員長

第57号議案について、原案どおり決定してよろしいでしょうか。

（「異議なし」との声あり）

## ○委員長

それでは、第57号議案について、原案どおり決定いたします。

次に、第56号議案について、事務局職員に説明を求めます。

## ○教育総務課長

第56号議案 学校教育法附則第9条の規定に基づく平成28年度特別支援学級使用教科用

図書採択について、説明をいたします。

大田区教科用図書採択要綱第14条には、「区立学校に設置されている特別支援学級で使用する教科用図書については、区立学校の通常の学級で使用する教科用図書を使用する。第2項 前項の規定にかかわらず、学校教育法附則第9条に規定する教科用図書を使用する必要があると教育長が認めた場合は、特別支援学級設置校の校長会が審議し、適切と考える教科用図書を教育委員会へ報告する。」とあります。

なお、学校教育法附則第9条に規定する教科用図書の採択期間については、児童・生徒の実態に、より一層対応した教科用図書を選定するために、「義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律施行令第14条」の規定からは除外されており、4年間によらず採択しているものです。

教科用図書の選定については、指導課長から説明をさせていただきます。

#### ○指導課長

特別支援学級で使用する教科用図書の選定について御説明いたします。

各設置校の児童・生徒の障害の種類、程度、能力、特性に最もふさわしい内容、文字、表現、挿絵、取り扱う題材であること、可能な限り系統的に編集されており、教科の目標に沿う内容を持つこと、特定の教材もしくは一部の分野しか取り扱っていない図書、参考書類的図鑑類、問題集などは除くと言った観点のもと、特別支援学級設置校の校長会が東京都教育委員会の特別支援教育教科書調査研究資料、各設置校の意見を踏まえたうえで、適切と考える教科用図書として選定をいたしました。

選定された図書の一覧は、別紙のとおりでございます。御覧ください。

#### ○委員長

学校教育法附則第9条の規定に基づく特別支援学級使用教科用図書について、意見はありますか。

(「なし」との声あり)

#### ○委員長

第56号議案について、原案どおり決定してよろしいでしょうか。

(「異議なし」との声あり)

#### ○委員長

第56号議案について、原案どおり決定いたします。

これもちまして、平成27年第2回教育委員会臨時会を閉会します。ありがとうございました。

(午後4時36分閉会)